

自分の金では酒は飲まん

天井がぐらぐら回った。

遊園地へ行って、メリーゴーラウンドに乗っている様だった。

前のお馬に、あの子が乗っている。笑いながらこつちを振り向いている。

僕のお馬は外側を走り、僕の右手、中の方を走る、あの子のお馬は、どんだん先へ進み、暗闇に消えて行く。

追いつこうとしても、僕のお馬は遅いし、僕の足も、体も、動かない。

まわりが暗くなり、そのまま、水の中に、溺れて行く様な苦しい気持ちになった。

僕は、真っ暗な水の中にいるようで、上下が全くわからない。僕は、怖くなり、何かにつかまりたく、大の字になって、体を広げた。

思いつきり広げた左手が水面から出た。それを、誰かが、ぐいっと引き上げる感触を受けて、水面に顔を出したところで、目が覚めた。

時計を見ると、まだ、三時だった。